

なかとくじらしゆく

中徳次郎宿跡

中徳次郎宿は江戸時代、上・下徳次郎宿とともに、江戸日本橋を出立してから、日光道中21宿の18番目の宿場町として栄えた。

3宿の中では中程に位置し、宿の長さは2町51間（310m）、家数は50軒ほどであった。宿内には問屋場といやば兼本陣1軒、脇本陣1軒、高札場1こうさつば力所が設けられていた。社寺として



智賀都神社及び当社に付随した神宮寺、神明社、修験持宝院、あざ地藏堂などがあった。

当宿は旅籠はたごや商いで生計を立てる家が多く、造り酒屋、豆腐屋、石屋、髪結い屋、桶屋、茶屋、下駄屋、鍛冶屋など、多種多様な店が軒を連ねた。郷土民謡「徳次郎節」は、当宿で生まれたといわれる。



富屋地区まちづくり連絡協議会 令和2年建立